

支脚器M

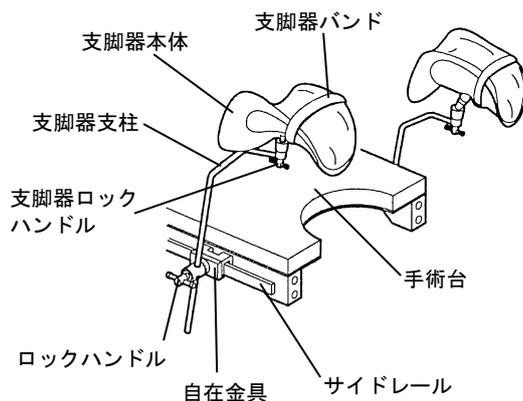
【禁忌・禁止】

〈使用方法〉

当社及びタカラベロント製の高さ32mm×板厚9mmのサイドレールを使用する手術台以外には、取り付けて使用しないこと。[安全性が保証できないため]

【形状・構造及び原理等】

1) 外観図



2) 機器の仕様

- 自在金具のロックハンドル操作により、支脚器本体を360mmの範囲で昇降させることができます。
- 自在金具のロックハンドル操作により、支脚器支柱を横方向及び縦方向に360°回転させることができます。
- 支脚器ロックハンドル操作により、支脚器本体を360°回転及び30°傾斜させることができます。
- 許容負荷荷重: 支脚器本体中央部に250N(25kgf)

〈動作保証条件〉

下記の条件にて使用すること。(ただし、結露しないこと)
周囲温度 10~40℃ 相対湿度 30~75% 気圧 700~1060hPa

【使用目的又は効果】

本機は、手術台に付属するアクセサリで、手術台に取り付け、患者の下腿部を支える為に使用する。

【使用方法等】

1) 取付・設置(組立・据付)

- 自在金具を手術台のサイドレールに取り付け、上から支脚器支柱を差し込み、自在金具のロックハンドルを時計回りに廻して固定します。
- 支脚器ロックハンドル操作により、支脚器本体の回転及び傾斜が正常に作動することを確認します。
- 各部のロックハンドル操作で固定及び解除が正常に作動することを確認します。

2) 操作方法又は使用方法

- 支脚器本体を支えながら支脚器ロックハンドルを反時計回りに廻してゆるめ、支脚器本体を任意の位置に回転させ、支脚器ロックハンドルを時計回りに廻して固定します。
- 脚が落ちないように、支脚器バンドで脚を固定します。

【使用上の注意】

〈重要な基本的注意〉

- 各ロックハンドルが確実に固定されているか確認すること。確実に固定されていないまま使用しますと、機器が動いたり、落下するなどの思わぬ事故の原因になります。
- ハンドル部に意図せず使用者や患者が触れることのないように注意すること。ハンドルがゆるむことにより、機器が動いたり、落下するなどの思わぬ事故の原因になります。
- 支脚器本体に患者の脚を載せたままで各ロックハンドルを操作するときは、支脚器本体を支えながら操作すること。支脚器本体を支えずに操作しますと、支脚器本体が急激に曲がり、思わぬ事故の原因になります。
- 支脚器本体中央部に許容負荷荷重(25kgf)以上の負荷を加えないこと。機器の破損の原因になります。
- 使用後は清拭作業を行い、機器を清潔に保ち使用すること。[清拭作業が不十分な場合は、菌の発生により人体に影響を及ぼす場合があります。機器を清潔に保ちご使用ください。]
使用可能な洗浄・消毒液の一例として、アルコール(70%)、4級アンモニウム系・塩化ベンザルコニウム(0.1~0.2%)をご使用ください。
- 金属腐食性の強い消毒液(ポピドンヨード、次亜塩素酸ナトリウムなど)は使用しないこと。[本体の腐食の防止]

【貯蔵・保管方法及び使用期間等】

〈保管方法〉

- 保管環境

周囲温度-20~60℃ 相対湿度10~90% 気圧500~1060hPa

〈耐用期間〉

- 本機の耐用期間は10年です。(自己認証(当社データ)による)
※正規の使用方法、保守点検、消耗品などの交換を行った場合に限る。
- クッション部品は使用環境によって異なります。

【保守・点検に係る事項】

〈使用者による保守点検(日常点検)〉

- ・ サイドレールへの接続状態の確認。
- ・ 外観の破損状態の確認。
- ・ 取付状態の確認。
- ・ 各部が正確かつ安全に作動することの確認。
- ・ ゆるみ、ガタ、傾き、臭気などの確認。

以上について点検を行い、少しでも「おかしいな？」と感じたらすぐに使用を中止すること。

しばらく使用しなかった機器を再使用するときは、使用前に清掃を行った後、必ず機器が正常にかつ安全に作動することを確認すること。

〈業者による保守点検〉

業者による保守点検を実施する場合は、弊社または医療機器修理業者などの有資格者へ依頼してください。

〈消耗品〉

ご使用によって磨耗や劣化、外観の変化、破損が予測される部品です。修理や交換の場合は保証の対象外となります。

- ・ 支脚器クッション

●機器を廃棄するとき

機器や交換した部品を廃棄するときは、感染予防を十分行ない、その時点での法規制に従い、適切な処理をしてください。

【製造販売業者及び製造業者の氏名又は名称等】

製造販売業者

タカラメディカル株式会社

TEL : 06-6499-3461

販売業者